

府中市福祉計画案に対するパブリック・コメント手続の実施結果について（高齢者福祉分野）

1 意見の提出期間

平成20年8月21日(木) から平成20年9月19日(金) まで

2 意見の提出状況

提出者数	件数	意見の提出方法（人）				
		Eメール	FAX	郵送	意見受付箱	持参
5人	8件	2	1		1	1

3 意見の概要及び意見に対する市の考え方

分野	番号	ページ	意見	意見に対する市の考え方
	総合的な問題について			
	1	—	資料が分厚く、市民がアプローチしやすい方法を考えるべき。	資料の分量について、一読できるような手法は取り組み易さ等のメリットがある一方、誤解を招くことも想定されますので、福祉計画を含めた他の計画等を鑑みながら、今後、検討していきます。
高齢者福祉	介護予防の推進について			
	2	124	介護予防の目的を明確・明文化して欲しい。	124ページの書き出しに記載してありますが、読み取りにくいと思われるので、次のように訂正します。 124ページ2行目から3行目 府中市では、高齢者が住み慣れた地域でいつまでもいきいきと暮らし続けることを目的に介護予防を重点施策として取り組んできました。
	3	—	「自立」を支える福祉の実現を目指して、文化センターに開発した「足ブランコ」（腰かけて手、足を運動する器具）をおいて欲しい。健康増進につながる。	次の理由で設置は困難です。 ①器具の利用効果が不明である。 ②利用者が安全かつ適切に器具を使用するには専門の指導者の配置が必要と思われる。
	4	117・124	介護予防推進センターについて、事業としては費用対効果が十分とは思えないので、センターの目的を変更してもっと活用できるようにするのがよい。具体的には、①予防リスクの無い人を対象にした事業の利用が多いことから、例えば、40歳以上（対象者が多すぎるのなら65歳以上でも）の市民の健康センターとして活用する。②今は65歳以上の保険介護保険適用外の人を対象ですが、原則65歳以上を対象として、介護保険の要支援1・2の人のサービスもでき	①介護予防では、リスクのある人にはそのリスクにあったサービスを提供し、リスクのない方はその状態を維持できるようにサービスを提供しています。介護予防の取り組みに早すぎるということはないので、介護予防健診でリスクが無いとされた方にもその人にあった教室を紹介しています。 ご意見のとおり、利用者が少ないことは課題でありますので、引き続き事業の周知や充実に努めてまいります。

		るようにする。	②要支援の方が介護予防教室を利用すると介護保険と二重給付になりますので利用制限を設けていますが、介護予防講座などは介護認定を受けている方もご利用いただけます。
安心して住める環境づくりについて			
5	134	高齢者住宅の運営に関して、キッチンの充実・市の中心から徒歩15分圏内の設置を望む。	高齢者住宅のキッチンには、安全性や使いやすさに配慮した設計となっておりますが、充実したキッチンとするための検討を行ってまいります。また、既存の民間賃貸住宅を活用し、高齢者が不合理な入居制限を受けることがなく、住宅を確保できるような施策の検討を行ってまいります。
6	134	穏やかな人生を送るために「特養施設」「ケアハウス」の充実を図って欲しい。	お一人暮らしの高齢者が要介護状態になったときの施設として、お体の状態に応じて「特別養護老人ホーム」「老人保健施設」「グループホーム」などの、24時間対応の介護保険施設がございます。これらの施設の整備は介護保険料への影響を考慮しながら、社会福祉法人等の参入促進について引き続き努力してまいります。
地域で支える福祉について			
7	135	「支え合い」のためにボランティア等の活用が望ましいのはもちろんだが、ボランティアの層をできるだけ広げるために、例えばデポジット制等の動機付けのシステムの導入はできるか。	「支え合い」のためには、「自助」、「共助」、「公助」の理念を、まず、踏襲していくということから、ボランティア（無償）を想定していますが、他方において、ご提案いただいた動機付けのシステムとしましては、既に、社会福祉協議会が「在宅福祉サービス—助け合い事業」として時間貯蓄を含む有償ボランティアシステムを運営しているところであり、その進展を期待しているところです。
総合的な問題について			
8	117～119	計画の理念や方向性に接して現実的に考えてみた場合、市民が現実的に福祉サービスを受けられるかという問題、財政の問題等はこの計画案からは分からない。	限られた財源の中、「府中市福祉計画案」117～119ページで重点施策として、優先順位を付ける一方、来年度の介護保険制度改正を見据え、今後、具体的な数量による検討により、福祉サービス具現化に向けた道筋を計画策定において、議論して参ります。